

資料収集の方針について

収蔵基本方針検討小委員会の報告から

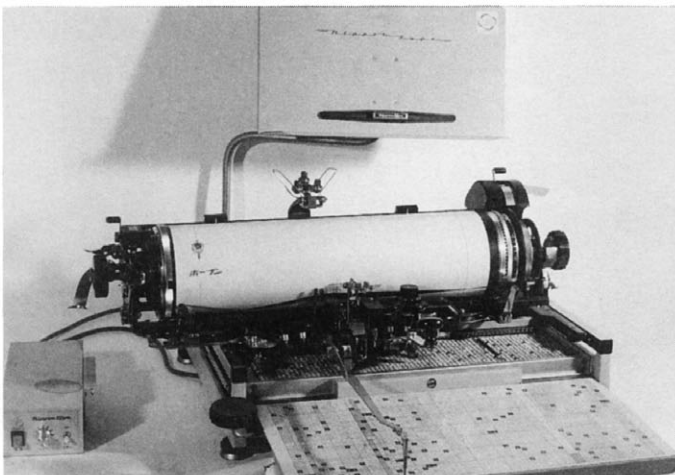
三好義昭

資料館は、総合移転にあたり、金沢城内キャンパスの加賀藩時代の遺構である「石川門」「三十間長屋」「鶴之丸倉庫」に保管されていた資料を保管・公開、研究・教育に資するための施設として構想され、平成元(1989)年4月、本学における学術研究資料を系統的に収集、整理及び保存し、教育研究に資することを目的とする(資料館規程第2条)、学内共同利用施設として設立された。以来、主として資料の収集、整理、保存を行ってきたが、昨年8月収蔵の「各種機器(12点)」の中に量産機種と事務器が含まれていたことが発端となり、資料収集基準の明確化が必要となった。

本年度第1回資料館委員会にて「収蔵基本方針検討小委員会」が発足し、改めて資料館設立の経緯を振り返ると共に、構想段階及び設立後の資料収集のあり方を確認した。

1. 資料館設立までの経緯

昭和61(1986)年7月、総合移転実施特別委員会に、「資料館検討小委員会」が設置され、金沢城内キャンパス石川門・三十間長屋・鶴之丸倉庫に分散して保管されている歴史・考古・美術等の資料を移転後どのように保管するかを検討した。



各種機器 12点のうち、和文タイプライター

同小委員会は昭和62(1987)年2月「資料館の基本構想」を報告。構想の「目的」には、角間移転にあたり、「人文科学関係の学術研究資料を系統的に収集整理保存してそれを研究し展示公開する」、さらに「総合大学の特性を發揮して自然科学系の資料も展示公開し、異分野の研究成果を交流学問的認識を高める」ことがあげられている。また「設立の趣旨」に「新たな機能として、人文関係にとどまらず自然科学関係の資料も含めた展示公開に重点を置く」とあり、展示においては自然科学関係の資料を扱うことが示されている。

昭和63年(1988)3月、上記「基本構想」を受けて、将来計画検討委員会内に「資料館設置準備委員会」が発足し、「当初搬入資料」、「資料館事業内容」、「金沢大学資料館規程」等を策定。昭和63(1988)年11月これらをまとめた「金沢大学資料館設置準備に関する報告書」を提出した。

設置準備委員会内に発足の「当初搬入資料及び初年度設備案作成のための小委員会(=資料館設置準備小委員会)」にて、当初搬入資料を選定した際、「資料館資料についての覚書」が提示されている。「覚書」には選定のための条件「(A)歴史的価値をもつもの。(B)展示及び研究資料として、十分にその価値をもつと考えられるもの。」が示されており、これを満たすとされた資料は以下であった。

(当初搬入資料)

「明倫堂」「経武館」、前身校旧蔵扁額類、暁烏敏陶磁器コレクション、甲冑、平安期木造仏、油彩画、日本画、考古学資料(暁烏敏収集古瓦、四高考古資料、金沢城跡68・69年発掘調査出土資料、金沢城跡出土五輪塔、金沢城跡出土石層塔搭身、一乗谷朝倉氏遺跡出土資料、西村見暁土器ランプコレクション、井上鋭夫収集資料)

同報告書「資料館事業内容」に示された「資料の収集」の項には「本学の教育・研究並びに市民の社会教育に資する美術、工芸、考古、歴史等の資料を収集する。」とある。このように資料館設立の構想の発端となる資料が文化史資料であったため、この時点では資料収集も文化史資料に限定されていた。



三十間長屋に保存されていた考古学資料 平成元年

2. 資料館設立後の収蔵資料

平成元(1989)年4月の資料館発足後、新たに収蔵された資料は、以下のとおりである。

なお平成5(1993)年、資料館に収蔵を希望する資料についての全学調査が行われているが、この依頼文には「資料館は、これまで基本的に、歴史、考古学、文化人類学、芸術等の分野の資料を収集対象としてきましたが、このたび、総合移転に伴う資料の散逸を防ぐことを目的として、自然科学分野の資料であっても、研究・教育上、歴史的価値を有するものについては収集対象に含め、収蔵資料の充実をはかることといたしました。」とあり、「歴史的価値を有する」自然史資料が収集の対象となった。この調査の結果、収蔵されたのが「四高物理器械」である。また平成7(1995)年には旧式小型計算機の所蔵調査を行っている。

- 1991 小中屋文書
彫刻「墮天使」、「裸婦像」
- 1993 四高物理器械(第1次)
青野元学長寄贈薩義爾氏筆書「茫茫東海」
- 1994 四高物理器械(第2次)
絵画「野の花」「庭の一隅」「鷺図」
絵画「パンテオンの見える風景」「薔薇」、
書「師範学校創立六十周年記念祝賀之詩」
- 1995 絵画「籠球」

- 1996 旧式小型計算機10点収蔵
大学総合移転資料
- 1997 絵画「日比野信一教授像」「鶴羽松太郎教授像」
松島家文書
- 1998 各種機器12点

3. 学術標本

平成8(1996)年1月、学術審議会学術情報資料分科会学術資料部会から出された「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について(報告)－学術標本の収集、保存・活用体制の在り方について－」は、大学の研究・教育活動の結果蓄積されていく「学術標本」について述べ、それらを保存・活用する施設として「ユニバーシティ・ミュージアム」の必要性を説いた。

学術標本は、同報告によれば、「学術標本は、自然史関係の標本や古文書・古美術作品等の文化財に限定されるものではなく、学術研究により収集・生成された『学術研究と高等教育に資する資源』である」と定義されている。したがって、それぞれの研究・教育分野において学術標本となり得る資料は極めて多岐にわたり、その種類・形状・規模も多様である。しかし、ここでいう学術標本とは、それらすべての資料をさすのではなく「学術研究の目的で収集あるいは生成されたもののうち、学術研究用の生物、不動産や構築物等の大型の資源、既に図書館・文献資料センター等で保存活用されている文献等を除いた有形の1次資料。」としている。

当館においてはこれまでの経緯から収蔵資料は文化史資料に偏っているが、「学術標本」(＝学術研究により収集・生成された『学術研究と高等教育に資する資源』)を対象とすることで文化史資料に限らず自然史資料、科学技術史資料をも収集することとなる。

しかし、現在学部・研究科等にある「学術標本」は、研究を目的として収集される資料、研究の結果蓄積される資料であり、これらが当該学部・研究科で活用されている間は、資料館に収蔵されることはないと思われる。学術的な記載がなされた資料のう

ち、教官の交代等により学部・研究科での継承が困難な資料を進んで受け入れる体制づくりをし、広く学内に呼びかけ、自然史資料、科学技術史資料の充実を目指したい。

今回の問題提起のきっかけとなった実験機器類等は、学術標本としての認識は薄く、備品として登録されているため耐用年数が過ぎれば廃棄される。しかし、本学での優れた研究に用いられた機器類は

本学の歴史に関わる資料として積極的に収集することが小委員会です承された。また時の淘汰を受けている機器類、すなわち旧制校時代・本学創設期のものは、学史・教育史を示しうる貴重な資料であり「学術標本」とみなすことができる。工学部・薬学部の移転にあたり、「学術標本」及び前史を含む本学の歴史を語る貴重な資料の散逸を防ぐべく、御協力をお願い致します。(資料館長)



HANDS ON !!



HANDS ON !!



講演会・特別展のお知らせ

平成11年度の講演会・特別展はテーマを「hands on!!」として連動させて行います。hands on(ハンズ・オン)とは、単に見るだけでなく、触ったり、においをかいだり等々のさまざまな体験を通して展示物との関わりをもてるよう工夫された展示のことです。

講演会の講師には、現在幅広く博物館やハンズ・オン(hands on)に関係する仕事に従事されている染川香澄さんをお招きして、「hands on」の魅力について講演いただく予定となっています。また、特別展“hands on!!”では、実際に体験できる企画を用意しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

特別展“hands on!!”－四高物理実験機器のある風景

期間：平成11年11月1日(月)～5日(金)

但し、3日(祝・水)は休館致します。

時間：午前11時～午後4時

会場：附属図書館内資料館展示室

講演会

『ハンズ・オンの魅力～ children's museum の現場から』

講師：染川香澄

『子どものための博物館』や、『ハンズ・オンは楽しいー見て、さわって、遊べる子どもの博物館』などの著者。京都市生涯学習振興財団理事他各種委員。

日時：平成11年11月5日(金)

午前10時30分～午前12時

会場：金沢大学附属図書館 AV 室 (三階)

入場無料



染川さんとうさぎのアーサー